

令和6年度 学校教育努力点について

1 今年度主題について

進んで学び、なかまと高め合うことのできる子の育成

2 主題設定の理由

グローバル化の進展や多極化、技術革新によって、子どもたちを取り巻く環境は急速に変化し、先行きが不透明で将来の予測が困難な状況にある。ここ数年を振り返っても、コロナ禍や世界情勢の変化など、子どもたちの生活や学習に大きな影響を与える出来事が頻出した。このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を適切に活用するなどして、新たな価値についていくことができるようにすることが求められている。名古屋市においても、令和5年9月に「ナゴヤ学びのコンパス」が策定され、「ゆるやかな協働性の中で自立して学び続ける」子ども中心の学び方や授業の在り方を改善していく必要性が示された。

そうした中、本校は、一昨年度より、「進んで学び、なかまと高め合うことのできる子の育成」を主題とし、子どもたちの主体的な学びと協働的な学びの充実を重点に取り組んできた。各教科領域の学習活動において、ICT機器の効果的な利活用を主な手立てとして、一人一人が自信をもって学習に向かい、仲間と関わり合いながら学びを深めることのできる実践を行った。このような取り組みは、「ナゴヤ学びのコンパス」で示されている「ゆるやかな協働性の中で自立して学び続ける子ども」の姿と合致し、子ども中心の学びに学校全体で向かっていると言える。

昨年度までの取り組みによって、子どもたちは、授業の中でのICT機器の操作だけでなく、学習に必要なワークシートや資料などを進んで作成したり、作成したカードなどをウェブアプリケーション上で提出したりすることに慣れ親しんできた。また、ICT機器を活用して、仲間の考えと自分の考えを比較して、共通点や相違点を見いだしたり、仲間と交流することで、新たな考えや方法などに気付いたりすることができた。一方で、ICT機器を活用する場面の設定やワークシートの精選など、子どもの思考や活動の目的に沿うようにすることが課題として残った。

そこで本年度は、主題にある子どもの姿を目指した最終年度として、これまでの成果を継続しつつ、子ども中心の学びにつながるICT機器の利活用の方法や学習活動に重点を置いた取り組みを行っていく。学習に見通しをもち、身に付けたい力の獲得に向けて、学習を進めていけることのできる子どもの育成を目指す。また、学級の仲間と学び合いながら、一人一人の課題と向き合うことができるようにする。そうすることで、主体的な学びと協働的な学びの一体化を実現し、今後、子どもたち一人一人が向き合う様々な課題を主体的に解決し、より良く生きていくための資質や能力を養うことにつながると考える。

3 研究の方法

主題に迫るために、子ども中心の学びにつながるICT機器の利活用や学習活動に重点を置き、学習方法や学習活動におけるICT機器の活用場面を検討し、目指す子ども像を設定する。そして前期と後期において授業研究に取り組み、目指す子ども像に迫る。本年度は、以下の仮説を立て、実践に取り組む。

仮説 子ども中心の学びにつながる学習を目指し、ICT機器を活用する学習場面を設定したり、子ども同士が学び合う場面を取り入れることによって、子どもが主体的に学習を進めたり、協働的に活動したりすることができる。それによって目指す子ども像に迫ることができる。

- 進んで学ぶことのできる学習方法や学習活動を検討する。
- 協働的な活動におけるICT機器の活用方法や使用場面を検討する。